領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
科学的思考の基盤	データサイエンス基礎	1	15	1	1	院外講師

科　目　目　標
研究の基本と用いられる統計の基礎的知識を身につける。

講　義　内　容	留意点等
1回目：　記述統計と推測統計 2回目：　度数分布・ヒストグラム 3回目：　平均値・中央値・最頻値 4回目：　レンジ・分散・四分位数・四分位偏差 5回目：　パーセンタイル・変動係数・zスコア 6回目：　相関・クロス集計 7回目：　統計的検定（t検定・カイ二乗検定） 8回目：試験（45分）	電卓を用いる。ルートの計算ができ、メモリーのある電卓を各自持参すること。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
なし（講師の資料）	なし　　※各自　電卓の持ち込み

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
科学的思考の基盤	基礎情報科学実践Ⅰ	1	30	1	2	院外講師

科　目　目　標
１．基本ソフトウェアWindowsの役割を理解するとともにファイルの管理ができる。 ２．ネットを利用する方法を学ぶとともに、課題や注意点を理解する。 ３．学習や事務的な仕事で必要となる文書・計算表やグラフ・プレゼン資料を、作成することができる。 ４．コンピュータを活用するために必要な基礎知識や操作技法（タッチタイプ含む）を身につける。

講　義　内　容	留意点等
1回目：授業ガイダンス タッチタイプの重要性と方法、身につけるための練習方法 基本ソフトの役割と操作 エクスプローラとファイルの管理、教室環境の理解 2回目：基本ソフトの役割と操作（ファイル管理を中心に） インターネットと情報検索 ブラウザと検索エンジン 自宅学習：情報モラル（モラルとセキュリティ） 3回目：URLの仕組み、Google検索 表計算の基本（表の作成、式） 自宅学習：情報モラル（個人情報） 4回目：表計算の基本（表の編集、印刷方法、表作成練習） 自宅学習：情報モラル（著作権） 5回目：表作成の基本（絶対参照、） 自宅学習：情報モラル（社会に潜む危険） 6回目：表作成の応用（グラフ作成、印刷表作成課題） 自宅学習：情報モラル（メールコミュニケーション） 7回目：表作成の応用（様々な関数を活用した表、課題） 文書作成の基本（ページ設定、フォント、段落） 自宅学習：情報モラル（Ｗｅｂによるコミュニケーション） 8回目：文書作成の基本（表現力アップ：図、写真、タブ等） 自宅学習：情報モラル（モバイル機器） 9回目：長文のレポートの編集、レポートの体裁 ビジネス文書作成 10回目：ポスタ資料作成の基本（ポスタ発表） パワーポイントの基本（画面、図形、文字、写真等の素材編集） 11回目：課題：ポスタ制作 12回目：プレゼン資料作成の基本 アウトラインによるプレゼン資料作成 13回目：プレゼン資料作成の基本 動きのデザイン（画面切替効果、アニメーション設定） 印刷の方法 14回目：課題：プレゼン資料制作 15回目：プレゼン等の課題提出 実技試験・理解度試験	各自、データを保存するUSBを用意してください。 初回の授業で、タッチタイプ（手元を見ずにキーボード入力ができる技術）練習のためのソフトをUSBに入れる予定です。 練習方法を説明した回以降は、必要と思う人は各自で練習をしてください。 練習ソフトには、練習時間が記録されます。身につけるための継続した練習をしましょう。 毎回授業振り返りアンケートを授業終了直前にネットで実施します。その日の授業を振り返ることと質問を記入してください。しっかり記述することで授業時間で学んだことや、自分の学び方を確認してください。意見や質問など積極的に入力してください。 質問は、次の回に回答します。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
情報リテラシー入門編　Windows11/Office2021対応 FOM出版	なし

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	授業で課す課題・レポート　50% まとめの試験　40% 毎回授業の振り返り提出状況　10%

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
科学的思考の基盤	基礎情報科学実践Ⅱ	1	15	2	1	院外講師

科　目　目　標
情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的知識を身につける。

講　義　内　容	留意点等
1回目：　情報の定義と特徴 情報とは、情報の特性、情報の認知と意思決定、 情報の伝達とコミュニケーション 2回目：　情報化社会 インターネット、情報通信技術（ICT）、 情報化による社会の変化 3回目：　保健医療と情報 医療における情報、エビデンス情報に基づいた 保健医療、ヘルスプロモーションと情報 4回目：　看護と情報 看護における情報、情報化社会と看護 5回目：　情報活用の実際 ICTを用いた看護の情報収集、情報の活用、 情報管理、マネジメント 6回目：　医療における情報システム 7回目：　情報倫理､患者の権利と情報、個人情報の保護 医療においてICTを活用することの課題 8回目：試験（45分）	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
エッセンシャル看護情報学　医歯薬出版	なし

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
科学的思考の基盤	物理学	1	30	1	1	院外講師

科　目　目　標
様々な物理現象を基本原理から理解することにより、看護における物理的考察ができる能力を身につける。

講　義　内　容	留意点等
1回目：移動動作に必要な力の加減 力とは、力の表示、力の単位、力の合成と分解（図による） 2回目：力の分解 反対牽引の例、数値での求め方、三角関数 3回目：体位変換に役立つトルクの知識 トルクとは、てこの原理、看護に関するトルクとてこ 4回目：安定・不安定 重心と重心線、安定の条件、看護技術との関わり 5回目：撃力と骨折 運動量、運動量と撃力、撃力の計算 6回目：「力のつりあい」を応用する 牽引、滑車とロープで引く力、反対牽引 7回目：摩擦力 摩擦力の種類（静止摩擦力、最大静止摩擦力、動摩擦力）と方向 摩擦力の大きさ、反対牽引との関係 8回目：「人肌程度の温度」のあいまいさ 温度と温度目盛、比熱、熱量、温度変化 9回目：体熱の産生と喪失に関する物理 熱の伝わり方（伝導、対流、放射）と体熱の喪失、水分の蒸発 10回目：知っておきたい圧力の基礎知識 圧力と圧力の単位、血圧の単位（mmHg） 11回目：流体の圧力、ネブライザーの原理 動圧と静圧（側圧）、ベルヌーイの定理 12回目：血圧に関する知識 血圧における動圧と静圧、最高血圧、最低血圧、測定上の注意 13回目：濃度の表し方 溶液、溶媒、溶質、重量パーセント、容量パーセント、原子量 分子量、モル 14回目：皮下注射や人工透析を行なう際に必要な浸透圧の知識 拡散現象、半透膜、浸透圧、オスモル、血液透析の原理 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
「ベッドサイドを科学する-看護に生かす物理学-」学研	なし

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
科学的思考の基盤	思考と表現	1	30	1	1	院外講師

科　目　目　標
言語と思考の関係を学び、論理的思考の方法と説得力のある言語表現を身につける。

講　義　内　容	留意点等
1回目：　日本人の表現の特色 2回目：　日本語の文字表記と現代仮名遣い 3回目：　送りがなと漢字の用法 （1）新常用漢字と付表 4回目：　漢字の用法 （1）同音異義語、四字熟語、慣用句等 5回目：　主述対応（首尾一貫した表現にするために） 6回目：　日本語表現の問題点－重言について 7回目：　間違えやすい慣用表現 8回目：　（言語）表現技法（文化庁） 9回目：　言語表現学 - 論理について（１） 10回目：　言語表現学 - 論理について（２） 11回目：　レポート・論文の書き方・ジャンル別文章論 12回目：　待遇表現（Ⅰ）（基本） 13回目：　待遇表現（Ⅱ）（応用Ⅰ） 14回目：　待遇表現（Ⅲ）（応用Ⅱ－バイト敬語） 15回目：　まとめ・試験	表現技法や待遇表現等の演習を含む

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
なし（講師の資料）	なし

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験 および 小テスト、授業態度

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
科学的思考の基盤	英語表現Ⅰ	1	30	1	2	院外講師

科　目　目　標
国際社会に適応できる基礎的な英語力を身につける。

講　義　内　容	留意点等
1回目：オリエンテーション 2回目：CHAPTER 1スポーツで健康な暮らし 3回目：CHAPTER 1スポーツで健康な暮らし 4回目：CHAPTER 2栄養は健康の鍵 5回目：CHAPTER 2栄養は健康の鍵 6回目：CHAPTER 3現代はストレス時代？！ 7回目：CHAPTER 3現代はストレス時代？！ 8回目：CHAPTER 4エイズ撲滅！ 9回目：CHAPTER 4エイズ撲滅！ 10回目：CHAPTER 5間接喫煙は有害！ 11回目：CHAPTER 5間接喫煙は有害！ 12回目：CHAPTER 6親になるのは恐い？！ 13回目：CHAPTER 6親になるのは恐い？！ 14回目：まとめ 15回目：期末試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
Life and Health Care 「総合英語：健康と医療」三修社	なし

主とする授業形態	評　価　方　法
演習、発表形式	最終筆記試験　60% 小テスト　20% ノート　20%

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	暮らしと文化	1	15	1	1	院外講師

科　目　目　標
人間の生活を多面から深く理解し、現代人の生活者としての姿を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：暮らしと文化を見る視点 生活目標に着目 2回目：１人ひとりの生活目標 意識される目標／必ずしも意識されない体系的な目標 3回目：対話による生活目標形成 1人の場合／複数人の場合／自立困難な場合 4回目：生活への気づきと生活目標形成（１） 『もしドラ』（岩崎夏海著）からの示唆 5回目：生活への気づきと生活目標形成（２） 消費生活に関する文献からの示唆 6回目：生活への気づきと生活目標（３） ケイパビリティ・アプローチからの示唆 7回目：生活目標の形成と保健医療専門職 ８回目：試験(45分)	①板書を中心とし、必要に応じて資料を配布します。資料を必ず読むこと。また、資料に示す文献のいくつかを読むこと（授業中に指示）。 ②『もしドラ』とは、岩崎夏海著『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』（ダイヤモンド社）です。

テ　キ　ス　ト	サブテキスト
なし（講師の資料）	なし

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験 70% 小テスト（毎回実施）30%

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	心理学	1	30	1	1	院外講師

科　目　目　標
人間を身体的・心理的・社会的に統合された存在として理解し、心の発達課題と心理（認識と行動）の基礎知識を学ぶことで、自己理解、他者理解を深める。

講　義　内　容	留意点等
＜人間の心理を理解するための基礎＞ 1回目：心理学はどのような学問か 2回目：感覚・知覚の心理 3回目：学習の心理 4回目：記憶の心理 5回目：感情・動機の心理 6回目：性格・知能の心理 7回目：発達の心理 8回目：社会・集団の心理 ＜医療場面での人間理解の展開＞ 9回目：ストレス理論 10回目：心理アセスメント 11回目：心理療法の基礎 基本的面接技法の修得①　（ロールプレイ） 12回目：基本的面接技法の修得②　（ロールプレイ） 13回目：交流分析による自己理解、 看護師と患者の関わりの理解（ペアワーク） 認知行動療法の実践　（ペアワーク） 14回目：家族療法の技法の修得：ジョイニング、リフレーミング （グループワーク） 医療現場での行動科学の応用 15回目：まとめ・試験	ロールプレイ、ペアワーク、グループワークを取り入れての演習を含む

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
「看護学生のための心理学」医学書院	なし

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、グループワーク等による演習	筆記試験

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	社会学	1	30	1	1	院外講師

科　目　目　標
個々人の生活を構成している社会のあり様とその仕組み、その課題について学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：イントロダクション 2回目：社会学の基礎概念 3回目：保健医療と社会学 4回目：健康・病気と社会 5回目：健康・病気の社会格差 6回目：ディスカッション：健康・病気の社会格差 7回目：労働と健康 8回目：経験としての病い 9回目：患者−医療者関係 10回目：ディスカッション：患者−医療者関係 11回目：性・ジェンダー・家族と保健医療 12回目：ディスカッション：性・ジェンダー・家族と保健医療 13回目：地域社会と保健医療 14回目：保健医療制度 15回目：まとめ・試験	私たちは社会のなかで数多くの他者とともに生きており、さまざまな経験をもっています。社会学とは、こうした私たちの経験の諸相に注目し、またそれらのなかに私たちが他者と共に生きていることから由来している帰結を見出していく知的作業のことです。この授業ではとりわけ健康や医療を中心にこのような作業を行いながら、私たち自身の経験をより広い視野から捉え返していってみたいと考えています。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統別看護学講座 基礎「社会学」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義・グループディスカッション	授業内課題・期末試験

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	英語表現Ⅱ	1	30	2	1	院外講師

科　目　目　標
医療・看護の場面で用いられる基礎的な英語を理解し、看護活動に役立つ基礎的なコミュニケーション能力を身につける。

講　義　内　容
1回目：Unit 1 Please speak more slowly 2回目：Unit 2 Where are you from? 3回目：Unit 3 Could you tell me your address, please? 4回目：Unit 4 What department do you want to visit? 5回目：Unit 5 Where is the X-ray department? 6回目：Unit 6 What are your symptoms? 7回目：Unit 7 Where does it hurt? 8回目：Unit 8 Have you ever had any serious illnesses? 9回目：Unit 9 Take one tablet, four times a day 10回目：Unit 10 Let me make an appointment for your test 11回目：Unit 11 Your surgery will be tomorrow at 9 a.m. 12回目：Unit 12 How are you feeling today? 13回目：スピーチ準備 ＋ 応用的な内容 14回目：Oral Exam Speech　スピーチをする・聴く 15回目： Term-end Examination　まとめ、単位認定試験

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
「クリスティーンのやさしい看護英会話」 医学書院	付属リスニング(websiteから取る)
主とする授業形態	**評　価　方　法**
演習、ペア＋グループ・ワーク、ロールプレイ	期末試験50%、小テスト＋Oral Examを基本に授業中の積極的な授業参加度を合わせて総合的に50%で評価

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	保健体育	1	15	3	2	院外講師

科　目　目　標
運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義を学び、自ら運動プログラムを日常的に実践するための手掛かりを得る。

講　義　内　容	留意点等
1回目：オリエンテーション 2回目：今の自己を知る 3回目：その場ウオーキング 4回目：ウオーキング 5回目：ストレッチ 6回目：ドローイン&体幹トレ 7回目：サーキットトレーニング 8回目：まとめ	

テ　キ　ス　ト	参　考　文　献
なし	なし

主とする授業形態	評　価　方　法
実技	毎回の出席状況、授業への参加状況60% 授業態度20%　実技試験等20%

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	人間関係論	1	30	1	2	院外講師

科　目　目　標
他者との関わりの体験を通して自分自身の特徴や人間関係の基礎について考察し、人間関係の形成に必要な能力を身につける。

講　義　内　容	留意点等
1回目　人間関係論を学ぶ意義と目的 ホーソン工場実験　演習）ジョハリの窓 2回目　対人関係と役割Ⅰ　対人関係の成立 演習）季節のことばワーク① 3回目　対人関係と役割Ⅱ　対人関係の維持と崩壊 囚人のジレンマ　演習）季節のことばワーク② 4回目　社会的役割と役割葛藤　認知的不協和 演習）「聴く」トレーニング 5回目　説得的コミュニケーション 演習１）面接方法　演習２）あいづちの方法 6回目　集団での課題遂行　傍観者効果 演習１）社会的手抜き 演習２）救急車利用の有料化についてグループ討議 7回目　集団思考、リーダーシップ 演習）ジグソー学習 8回目　コミュニケーションⅠ　良い印象づくり、こどば使い、わびる 演習１）図形ワーク　演習２）実習ワークシート 9回目　コミュニケーションⅡ　積極技法 演習）実習の不安事項について解決型グループ討議 10回目　コミュニケーションⅢ 演習）課題解決型グループ討議② 11回目　カウンセリング 演習）7分間カウンセリング　演習）桃太郎トレーニング 12回目　コーチング 演習）看護への応用 13回目　アサーティブ・コミュニケーション演習）課題に個人、チームで取り組む　演習）復習問題① 14回目　保健医療チームの人間関係、患者を支える人間関係ほか 演習）復習問題②、③ 15回目　まとめ・テスト	様々にグループ分けを行い、その中で演習や討議を通して学ぶ。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　基礎「人間関係論」医学書院 適宜プリント配布	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、体験学習（グループワークによる演習）	筆記試験 90% レポート 10%

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	倫理学	1	30	2	2	院外講師

科　目　目　標
人間の存在や価値についての考えを深め、多様な人間観、死生観を学ぶ。社会の規範や生命の尊厳など倫理の本質と医療をめぐる倫理的課題を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：倫理学の概要、歴史について 2回目：生と死をとりまく状況について 3回目：死をめぐる諸問題（1） 脳死臓器移植の歴史・概要 4回目：死をめぐる諸問題（2） 脳死臓器移植の諸問題 5回目：死をめぐる諸問題（3） 安楽死尊厳死の概要 6回目：死をめぐる諸問題（4） 安楽死尊厳死の諸問題、終末期医療について 7回目：死をめぐる諸問題（5） グループワークとまとめ 8回目：生をめぐる諸問題（1） 生殖補助医療について 9回目：生をめぐる諸問題（2） 出生前診断と選択的人工妊娠中絶について 10回目：生をめぐる諸問題（3） グループワークとまとめ 11回目：その他の諸問題（1） 医療資源の配分 12回目：その他の諸問題（2） インフォームドコンセント、自律性の尊重 13回目：その他の諸問題（3） 先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ 14回目：その他の諸問題（4） グループワークとまとめ 15回目：まとめ・筆記試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
なし（講師の資料）	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、グループワーク	筆記試験 60% レポート 40%

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	教養と感性	1	30	1	1	院外講師

科　目　目　標
創造性豊かな人間性を養い、看護を学ぶものとしての教養と感性を高め、主体的に学ぶ姿勢を身につける。

講　義　内　容	留意点等
＜マナー＞ 1回目：マナーとは～日本の礼儀作法の成り立ち ・西洋のマナー、アジアのマナー　・席次 演習）お辞儀の仕方など 2回目：好印象を与えるコミュニケーション ・あいさつ、言葉遣い、話し方、身だしなみ 演習）敬語など 3回目：社会人としてのマナー ・手紙、電話対応、電子メールのマナー 演習）返信はがきの書き方など 4回目：食事の文化と歴史 ・和食、西洋料理、中国料理、お酒のマナー 演習）美しい箸使いなど 5回目：冠婚葬祭のしきたり ・人生の通過儀礼について　演習）玉串の扱いなど 6回目：祭のしきたり・まとめ ・日本の年中行事について 7回目：テスト	・専門職業人としての接遇力とマナーの習得を目的としている。 ・マナープロトコール検定３級受験（任意）については、授業中に説明する。
＜音楽療法＞ 音楽療法の定義、音楽の作用、対象、演習 1回目：音楽療法とは（歴史と定義）概説 2回目：音楽療法の手法、対象者　各論 3回目：音楽療法演習①　楽器を使ったワークショップ 4回目：音楽療法演習②　CDを使ったワークショップ 5回目：まとめ・レポート	・幅広い年齢層に取り入れられている音楽療法の講義と演習を通して「音楽の利用法」を学びます。 ・演習では、楽器を使ったワークショップの他、ストレスマネジメントとして身近に生かせる音楽の活用法も実践します。
＜芳香療法＞ アロマテラピーの概要、精油各論、歴史　演習 １回目：アロマテラピー「芳香療法」の定義と歴史 ２回目：医療現場でのアロマテラピー　精油の各論 ３回目：演習（ハンドトリートメント）確認テスト	・アロマテラピーの基礎を身につけるとともに、それを自分らしくどう生かせるか？を知識と演習の中で学ぶ。 演習：ハンドセラピー アロマを使用した呼吸法 （精神的安寧を保つためのケア）

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
＜マナー＞ 最新版「『さすが』と言わせる大人のマナー」 日本マナー・プロトコール協会	

主とする授業形態	評　価　方　法
＜マナー＞講義、演習、実践ワーク ＜音楽療法＞講義、演習 ＜芳香療法＞講義、演習	＜マナー＞　筆記試験 ＜音楽療法＞レポート ＜芳香療法＞レポート